



# まんだらげ

Vol.40  
2017 SPRING

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo: 熊野本宮大社例大祭(田辺市本宮町)



## Contents

新体制のごあいさつ

特集 / 甲状腺クリーゼ日本語版ガイドライン発刊  
TOPICS / フライトナース・DMAT 紹介、ハートレシビ

### 理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

### 基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

# 新体制のごあいさつ

## 病院長あいさつ

### 高度先進医療を和歌山県民に

和歌山県立医科大学附属病院は、質の高い医学研究を基にした高度先進医療を推進し、医学教育・研修を実施する能力を備えた大学附属病院(特定機能病院)です。特定機能病院は全国で84病院が承認されており、もちろん県内では当院が唯一の特定機能病院です。さらに、高度先進医療を通じて県民の医療に責任を持つ県立病院としての機能を兼ね備えています。

当院は、一般病床760床と精神科病床40床を合わせた800床から成り、27診療科と22中央部門を擁しています。高度で先進的な医療を提供し、あらゆる分野の疾患に対して総合的な診療ができる特定機能病院として承認されている以外にも、都道府県がん診療連携拠点病院、県災害拠点病院、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、エイズ治療拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院など多くの指定を公的機関から受けています。同時に、医学部学生および保健看護学部学生の卒前・卒後教育のための教育機関であり、すぐれた医師・保健看護師を育成するために日夜医学研究を行う研究機関です。また、日本医療機能評価機構が認定する「病院機能評価」を取得し、質が高く安全な医療を提供し、患者さんからさらに信頼される病院運営に努めています。

当院では、平成24年から手術支援ロボット『ダヴィンチ』を導入し、前立腺がんや直腸がんの低侵襲手術に用いることで、患者さんに優しい治療を実践しています。また、平成25年からは強度変調型放射線治療として『トモセラピー』を導入し、主に頭頸部がんの治療に使用し、治療成績を上げているところです。さらに、平成26年4月に附属病院東棟がオープンし、中央手術部は高度で先進的ながん診療の充実強化が図られ、7室増室されて12室から19室になりました。東棟手術室では、心血管疾患に対して新たに血管内治療と外科的治療を組み合わせた治療が可能な「ハイブリッド手術室」や複雑な脊柱変形等の治療に対して日本ではまだ限られた施設にしか導入されていない最先端の術中モバイルCTとコンピューターナビゲーションシステムを備えた手術室などがあり、より安全で正確な手術が可能となりました。また、内視鏡検査、治療室も5室か



病院長・外科学第二講座(消化器・内分泌・小児外科)教授

## 山上 裕機

ら9室に増室され、新たな医療技術の開発によって内視鏡手術や診断のさらなる充実を目指しています。

そして、県内の医師不足対策として平成20年度以降、地域医療枠と県民医療枠の医学部定員を増員しており、これらの学生の卒後9年間の教育キャリア形成支援を行うため、地域医療支援センターを新たに設置し、遠隔外来や遠隔救急支援、講義聴講などが可能なテレビ会議システムを導入しました。遠隔外来とは、県内の地域病院13施設と和歌山医大を繋ぎ、大学附属病院に来院するのが難しい患者さんに対して、地域の病院にしながら大学に在籍する専門医のアドバイスを受けることが出来る画期的なシステムです。さらに、臨床研究センターを充実させ医学研究を支援することで、質の高い研究成果にしたがった先進医療を提供しています。

以上のように、当院では大学附属病院として最先端機能の充実を図っており、県民の皆様の期待に応えられるよう、今後もより一層努めてまいります。

平成29年4月1日

### 経歴

昭和56年	3月	和歌山県立医科大学卒業
昭和56年	4月	和歌山県立医科大学附属病院 研修医
昭和58年	4月	国立田辺病院
昭和60年	4月	和歌山県立医科大学附属病院 臨床研究医
昭和60年	11月	和歌山県立医科大学 助手(外科学消化器担当)
平成	3年 8月	同 講師
	4年 9月	米国国立衛生研究所(NIH)・国立がん研究所(NCI) Visiting Associate
平成11年	6月	和歌山県立医科大学附属病院 助教授 (附属病院集学的治療・緩和ケア部)
平成13年	6月	和歌山県立医科大学 教授(外科学第二講座)
平成26年	4月	和歌山県立医科大学 医学部長
平成29年	4月	和歌山県立医科大学附属病院 病院長



## 安全で質の高い先進医療

副院長・脳神経外科学講座教授

### 中尾 直之

平成26年4月に前病院長吉田宗人先生の下で副院長を拝命し、このたび山上裕機病院長の新体制において引き続き副院長を勤めさせて頂くこととなりました。

和歌山県立医科大学附属病院の大きな使命の一つとして、高度先進医療の提供があります。実際、本学附属病院では内科系および外科系の各診療科において目下多くの高難度技術を必要とする治療が活発に行われております。このような状況の下では治療の安全と質を担保することが最重要課題となります。これからも微力ではありますが副院長として、県民の皆様方が安心して良質な医療を受けていただけるように一層の努力を続けてまいります。



## 県内医療の維持・発展

副院長・眼科学講座教授

### 雑賀 司珠也

新しく副院長を拝命いたしました眼科の雑賀司珠也です。紀三井寺で生まれ育ち、和歌山市内で教育を受けてきたからかもしれませんが、自身が地域医療に思い入れが強いように感じています。これまで眼科教授として10年間、地域密着の眼科医療の充実を大きな目標としてきました。副院長としては、山上裕機病院長の目指す和歌山県内医療と附属病院の医療の発展のために、力を尽くすことができると希望しています。

まだまだ未熟で皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしなければならぬことと思っておりますが、何卒、よろしくお願い致します。



## 県民の皆様が安心して暮らせる 患者支援体制の充実

副院長・神経内科学講座教授

### 伊東 秀文

このたび、附属病院副院長、患者支援センター長及び認知症疾患医療センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い致します。

和歌山県はますます高齢化が進み、認知症をはじめ、さまざまな病気を抱えて在宅療養をしておられる方が急増しています。病状の悪化や急な症状の変化にどう対処すればいいのか、不安をお持ちの方も少なくないと思います。

大学附属病院として、先進的で安全な医療を提供するとともに、在宅から入院治療、そして在宅へと円滑につなぐ体制を一層整備し、県民の皆様が安心して日々の生活を送れるよう努力して参ります



## 患者さんが生活を継続する ための看護を提供

副院長・看護部長

### 角谷 知恵美

引き続き副院長・看護部長を務めることになりました。看護部は新たに看護職員88名を迎え、大学病院として先進医療に対応した看護を提供するとともに、専門職業人として患者さんやご家族の思いを支援し、了解、協力のもとに責任ある看護を実践して行きたいと考えています。

また、2月には「特定行為に係る看護師の研修」の指定研修機関として厚生労働省から指定を受けました。地域包括ケアシステムの中で看護師が活躍できる場面がますます拡大されていきます。これからも患者さんが住み慣れた地域で生活を継続することができるよう支援を続けてまいります。



特集

# 甲状腺クリーゼの 診療ガイドラインを樹立

## 診療ガイドラインの日本語版を今年4月発刊

甲状腺は首の前側、のどぼとけの下にあり、蝶が羽を広げたような形をしています。ここで作られる甲状腺ホルモンをトリヨウ素サイロニン (T<sub>3</sub>)、サイロキシニン (T<sub>4</sub>) といい、主に身体の新陳代謝を調節する働きがあります。甲状腺ホルモンは量が多すぎても少なすぎても全身に様々なつらい症状を引き起こす原因になります。

甲状腺ホルモンが多くなる有名な病気としてバセドウ病があります。甲状腺全体が腫れたり、眼球が前に出てきたりといった症状が現れることもあります。逆に甲状腺ホルモンが少なくなる病気としては橋本病が知られています。寒がりになる、脈がゆっくりになる、何事もやる気がなくなる、むくみやすいなどの症状が現れます。

「甲状腺クリーゼ」は、バセドウ病など甲状腺ホルモンが過剰に分泌される疾患の患者が病気をうまくコントロールできなくなり、38度以上の発熱、意識障害、けいれん、心不全、不整脈などの症状が現れる疾患で、治療が遅れば死に至るケースもあります。

以前は甲状腺専門医の診療を受けたことがない人が、症状が現れてから救急搬送されたため、甲状腺クリーゼと診断がつかずに見過ごされてきました。甲状腺クリーゼには適切な診断基準がなく、詳細な治療指針がなかったため、診断基準の作成、全国的な疫学調査や診療ガイドラインの作成が強く望まれ



内科学第一講座(糖尿病・内分泌・代謝内科)  
教授 赤水 尚史

てきました。

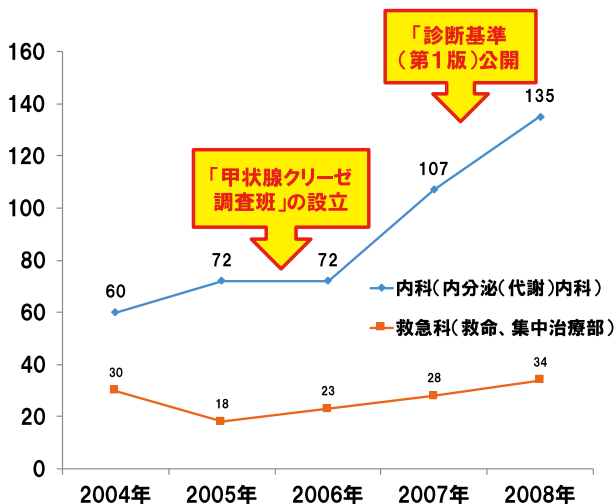
赤水教授は2006年に日本甲状腺学会が立ち上げた「甲状腺クリーゼの診断基準作成、全国疫学調査、診療ガイドライン作成」班の班長を務め、2008年に「診断基準(第一版)」を公開し、2012年に米国甲状腺学会誌に「診断基準(第二版)」を発表しました。

## ガイドラインにより 早期発見が可能に

診断基準の公開により、内科において甲状腺クリーゼと診断された患者の数は大幅に増加しました(下表参照)。その後も疫学調査や診断基準の策定を進め、2016年10月に「診療ガイドライン」を樹立し、日本内分泌学会発行の英文誌「Endocrine Journal」において公表されました。また、欧州甲状腺学会から正式な承認を受け、4月には日本語版診療ガイドラインが発刊されます。

赤水教授は記者発表で「このガイドラインが全国の医療機関に普及することで、医療現場での質の向上と予後の改善に活用していただきたい。そのうえで、ガイドラインに沿った治療法についての検証をし、予防にも役立てたい。」と述べました。

### 診療科別患者数の推移



## 甲状腺専門外来のお知らせ

**診療日** 毎週 月、水、木(年末年始、祝日を除く)

甲状腺疾患は適切に診断・治療すれば、日常生活や生命に影響することは稀ですが、和歌山県では甲状腺疾患に詳しい専門医がまだ少ないのが現状です。

糖尿病・内分泌・代謝内科では下記の専門医による甲状腺専門外来を開設し、積極的に甲状腺疾患の診療にあたっています。

### 日本甲状腺学会専門医

教授 赤水 尚史	講師 古川 安志
准教授 西 理宏	助教 山岡 博之
講師 稲葉 秀文	助教 竹島 健





# リソースナース紹介

リソースナースとは、変化する医療現場の最前線で働く看護師たちを専門知識や技能で支援する看護師です。今回は救急や災害の最前線で働く看護師を紹介します。

## フライトナース

フライトナースとは、当院の高度救命救急センターにおいて規定の研修を修了した看護師で、当番制でドクターヘリに搭乗し、和歌山県内の救急現場を中心に活動しています。ドクターヘリ搭乗時以外は集中治療室、救急病棟及び救急外来で勤務しています。

ドクターヘリのスピードは非常に速く、出勤から短時間で現場へ到着します。フライトナースはフライトドクターとともに、現場での少ない情報から必要な治療・処置を想定し、一刻も早く患者さんが適切な治療が受けられるよう臨機応変に対応します。そのため、看護師として豊かな経験と技術、判断能力、さらには他職種と協力し現場活動を円滑にするための調整能力が求められます。

患者さんの生命を左右する状況に関わり、常に緊



張感が高く、また、自己研鑽や体調管理なども含め責任は大きいですが、とてもやりがいのある仕事でもあります。ドクターヘリで運ばれた患者さんが回復し、社会復帰されることをフライトナース一同願って日々活動しています。

## 災害派遣医療チームDMAT

DMATとは大地震及び航空機・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療をおこなうための専門的な訓練を受けた医療チームです。

当院では医師6名、看護師8名、業務調整員8名が専門の研修を受講し、日本DMAT隊員として登録しています。主な活動実績は東日本大震災や紀伊半島大水害、熊本地震への出動で、救護活動や被災病院への支援などを中心に活動します。

普段はチームで積極的に災害訓練に参加しています。また、消防や自衛隊など他機関と連携した訓練への参加や、技能維持のための研修に参加し、災害時の対応能力の維持・向上に努めています。

東南海・南海地震は、近い将来必ず起こると言われています。来る大災害に備えて、県民の皆様にも安心して安全な医療を提供できるように、今後も日々努力していきたいと思えます。



## 看護師・助産師募集中

当院では、平成30年4月1日採用となる職員を募集しています。詳細については当院看護部のホームページをご覧ください。

<http://www.wakayama-med.ac.jp>



QRコード



## 新人看護職員臨床研修修了式

平成 29 年 3 月 28 日、平成 28 年 4 月に入職した看護職員の臨床研修修了式を執り行い、田島副院長から 89 名の新人看護職員一人ひとりに修了書を授与しました。

新人看護職員は、入職から 1 年間、部署内教育や集合研修でさまざまな知識や技術を習得してきました。修了書を手に自身の成長を実感し、今後さらにステップアップしてくれることを期待しています。



## 心臓にやさしい健康メニュー「ハートレシピプロジェクト」

このたび、和歌山県、公益財団法人日本心臓財団及びエドワーズライフサイエンス株式会社と共同し、“心臓にやさしい”をテーマに和歌山県の食材をふんだんに活用した「ハートレシピ」を開発しました。

減塩はもちろん、豊富な野菜を摂取できるように工夫し、一般の方が気軽に食生活を改善できるよう

に作っています。和歌山県の伝承食をアレンジした献立、和歌山県を代表する食材を使った献立です。詳しくは公益財団法人日本心臓財団のホームページをご覧ください。

([http://www.jhf.or.jp/heart\\_recipe/](http://www.jhf.or.jp/heart_recipe/))

### 菜の花の辛子和え

材料(1人分)

- ・菜の花 …………… 40g
- ・油揚げ …………… 2g
- ・薄口しょう油 …… 3g
- ・昆布だし …………… 5g
- ・みりん …………… 1g
- ・練り辛子 …………… 0.5g

作り方

- ① 昆布だしに薄口しょう油とみりんを合わせ、一煮立ちさせ、練り辛子を加え調味料を作る。
- ② フライパンで、油揚げを素焼きして焦げ目をつけ、拍子切りにする。
- ③ 茹でた菜の花をしっかり絞り、①の調味料とあわせる。

### 昆布だし

- ・水 …………… 1000ml
- ・昆布 …………… 20g ~ 50g(水に対し 2% ~ 5%)

作り方

- ① 水に昆布を入れて30~60分抽出する(加熱しない)
- ② 中火にかけて、沸騰直前に昆布を取り出す。

皮まで美味しい! 梅で育った「紀州梅まだい」の味噌焼き



### 紀州梅まだい味噌焼き

材料(1人分)

- ・紀州梅まだい …… 60g
- ・味噌 …………… 3g
- ・みりん …………… 2g
- ・昆布だし …………… 20g
- ・植物油 …………… 5g
- ・胡瓜 …………… 20g

作り方

- ① 昆布だしに味噌、みりんを合わせて溶く。
- ② 油をひいたフライパンに鯛の切り身を入れる。
- ③ 皮を香ばしく焼いてから①を表面にぬり、再度、火を入れ仕上げる。
- ④ 飾り切りした胡瓜を添える。



## 予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。  
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

### ■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

#### 患者支援センター

FAX番号: 073-441-0805  
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00  
木 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

### ■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。  
※特定の医師による診察をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

#### 電話予約センター

電話番号: 073-441-0489  
受付時間: 月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

### 病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

※対象: 平日に活動してくださる18歳以上の方  
詳細はお問い合わせください。

活動時間  
問い合わせ先

外来① 8時50分～11時30分  
外来② 11時50分～14時50分  
病棟 病棟と調整の上決定します。  
(活動時間はいずれも調整可能です。)

和歌山県立医科大学附属病院  
代表: 073-447-2300  
医事課 ボランティア担当

### 洋式トイレを増設しました

患者さんから多数ご意見、ご要望をいただいております外来エリアのトイレの洋式化につきまして、今年1月に2階外来エリア(心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科前及び医事課前)のトイレ内に洋式トイレ(温水洗浄機付便座)を増設しましたので、お知らせします。



### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

### 患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話しください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

### <外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。